

2005年度(平成17年度)第3回運営委員会記録

とき: 2005年10月2日(土)12:00~16:00

ところ: ぱるるプラザ京都

出席(敬称略): 小泉(俊)、山城、箕輪、郡、中村、千田、林、松本、松井、武田、佐藤、尾藤、三ツ浪、小泉(順)、福本、福永、(平(株)プラメド社)

【議題】

1. 運営委員長挨拶

小泉先生が、次回山口の学会と後期研修の話題を中心にお話し合いをお願いしたい旨挨拶しました。

2. ホームページの委託について

これまで尾藤先生が担当していた本学会ホームページの管理を業務委託したい旨事務局に打診があり、運営委員会で承認されました。委託先は、[\(株\)プラメド社](#)でホームページ管理費は本年度予算内で委託することになりました。

3. 邦文誌第10巻1号の進行状況

山城先生より、総論を除いて力作がそろい間もなく製作に入ることが報告されました。学会誌の名称は、「総合診療医学」とし、サブタイトルとして、日本総合診療医学会誌を入れます。160ページ仕上がりで、1500部製作し、定価を2000円で会員以外にも販売することになりました。未入手の論文は10月17日必着で催促します。

4. 英文誌 General Medicine Vol 6 No 1 は4論文を掲載し、付録で Ann Intern Med 2002;136:243-246 の Medical Professionalism in the New Millenium を掲載します。Narrative speaker の校閲を H.Steeve 氏(中央大学法学部教授)に委嘱することになりました。また松井先生と野口先生に associate editor に加わっていただくことになりました。

5. 第14回学術集会について

2006年3月4日(土)~5日(日)に宇部市で開催される次回学術集大会長の福本先生より準備状況が説明されました。プログラムに対する要望として、医学教育のみならず臨床的なテーマ(腰痛、女性など)も増やしてほしいという意見が出されました。

6. プライマリ・ケア関連の専門医制度について

小泉先生より、過日関連3学会代表者が集まり話し合いの結果、認定機構の立ち上げを急ぐより、専門医を目指す研修プログラムの提示を優先すべきであるとの方向にまとまりつつあるとの報告がありました。このあと全員の先生方から活

発な意見が出されました。以下箇条書きします。

- ・ 国民にわかりやすい専門医制度にしなければならない。学会としては identity を持つためには専門医制度は必要だ。運営委員会として初めての議論なので大事にしたい。
- ・ 学会活動はコアバリューを共有し一緒にやっていく。後期研修は共通部分と家庭医コースと一般内科医コースがあってよい。家庭医専門医制度はあっていいのでは？一般内科医は内科専門医制度を取得する
- ・ 内科専門医と同じではインパクトに欠ける。総合診療医は施設の中でコーディネート能力を持つというところまで踏み込むべきだ。本学会では病院で診療している医師の専門性を強調すべきだ。。
- ・ 評価しにくいのが総合診療だ。不明熱で他の専門医からコンサルトを求められるのが総合診療医の専門性ではないか。
- ・ コアバリューを明確化して、われわれの得意なのはこれだということを示して初めて専門医制度の話がでてくる。自分の守備領域を限定しないのが総合診療医だ。
- ・ 後期研修のプログラムで総合診療とは何かときかれて明快に答えられない。General に診れるのは内科では当然では、といわれてしまう。
- ・ 内科専門医と違うということを、どのように目標として明示するかが課題だ。
- ・ 日常、婦人科や耳鼻科から総合診療はコンサルトを受けている。総合診療に問題解決能力があるから他科はコンサルトしてくる。専門の内科とは違うという眼で見られている。
- ・ コミュニケーションや臨床問題解決能力のカリキュラムを確かなものにし、後期研修を確立することが必要だ。各大学からカリキュラムを集めてみてはどうか。
- ・ 今度の邦文誌の企画自体が、総合診療の実際を示している。総合診療医として内科専門医とは何か。コアとなるキーワードが出ている。後期研修のキーワードも出してみたい。
- ・ 総合診療の後期研修のワーキンググループを作って早急にまとめるべきだ。後期研修に関心が高まっている今がその時期だ。
- ・ generalist を目指す学生は多い。カリキュラムと専門医制度の両方が切実に求められている。
- ・ 市中病院で総合診療医を増やす努力も必要だ。市中病院で総合診療が認知されていない。
- ・ ER で研修医を内科医が指導していることに救急医学会は非常に危機感を持っている。
- ・ 全人的医療の考え方は総合診療の特徴として強調してほしい。

結論：後期研修のための WG を作ることになりました。委員長に千田先生、委員に、箕輪、郡、福永、尾藤、林、山城先生の名前が挙がりました。この WG で後期研修カリキュラムや研修期間について議論し、次回学術集会までに提案をまとめることになりました、宇部の学術集会プログラムで討論のためのセッションを設けることになりました。

次回運営委員会は 2006 年 3 月 3 日(金)の午後宇部市で行います。

以上

* 広告斡旋のお願い: 英文誌、邦文誌、年次集会抄録号への企業広告を募集しておりますが、先生方のお知り合いの企業へ働きかけをよろしく申し上げます。(オフィス・カイ)